



Title	札幌大学 : 札幌大学における留学生受入れ制度と現状について
Author(s)	久野, 弓枝; 孫, 磊
Citation	高等継続教育研究, 1, 7-11
Issue Date	2002-03-31
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/51850
Type	bulletin (article)
File Information	Hisano-1.pdf



[Instructions for use](#)

1-2 地域社会とのパートナーシップ構築の模索

(1) 私立大学と留学生

■ 札幌大学 札幌大学における留学生受入れ制度と現状について

久野 弓枝

孫 磊

1. はじめに

近年、18歳人口の減少やグローバル化のもとで高等教育機関では、留学生の受入れに関して様々な取り組みが実施されるようになってきた。北海道の留学生の総数は他の地方と比較すると2001年5月1日現在、1452人(全留学生数の1.8%)で少ないが、例外ではない。北海道内の留学生の状況を概観してみると、北海道大学が2001年11月1日現在、720人と一番多く、次いで札幌大学が168人となっている。また、留学生の出身国を見ていくと、他の地方に比べてロシアからの学生が多い。ここでは道内で私費留学生が最も多い札幌大学の取り組みについて報告するが、その前段階として国内における留学生政策の展開と留学生受け入れの状況について述べる。

留学生受け入れ政策は1954年の国費外国人留学制度の創設に始まるが、現在の留学生受け入れ政策の基盤となっているのは、文部省の1983年8月の「21世紀への留学生政策に関する提言」と1984年6月の「21世紀への留学生政策に関する展開について」の提言などを踏まえて創設された「留学生受け入れ10万人計画」である。「留学生受け入れ10万人計画」は、途上国の人材育成の協力・日本とそれら諸国との友好親善関係の推進を目指して創設され、21世紀初頭において当時のフランスでの受け入れ数と同数の約10万人の留学生受け入れを目標としている。また、私費留学生と国費留学生の割合を9:1程度とし、留学生受け入れの拡充に対応する基本的方策の大枠として、①大学等における受け入れ態勢の整備、②留学生のための日本語教育、③留学生のための宿舎の確保、④民間活動等の推進、⑤帰国留学生に対する諸方策をあげている。その後、「留学生受け入れ10万人計画」に関する提言

として、10万人計画の中間年1992年7月に「21世紀を展望した留学生交流の推進について」、1997年7月には「今後の留学生政策の基本的方向について」、1999年3月に「知的国際貢献の発展と新たな留学生政策の展開を目指して—ポスト2000年の留学生政策—」も出されており、渡日から帰国までの体系的な留学生受け入れの施策を総合的に進めている。

しかし、何度か留学生受け入れ政策に関する提言が出されているにもかかわらず、状況は厳しく留学生受け入れの総数は2001年5月1日現在、約7万8千人であり、10万人の留学生を受け入れるにはなかなか困難な状況となっている。また、他の主要国における受け入れの状況と比較しても高等教育機関の在籍者数に占める留学生の割合が低い(日本は約1.8%、イギリス約16.9%、アメリカ約6.2%)と言われている。

次に留学生受け入れの概況を出身国・在学段階・学費負担者における分類の順で見ていく。中国からの留学生が一番多く約4万4千人(55.8%)で、大幅に増加しており、韓国・台湾からの留学生を合わせると全留学生に占める割合は約80%にも上り、その他のアジア地域の留学生を加えると約92%に達する。在学段階別では、学部生が一番多く約3万5千人(約44.7%)、次いで大学院生が約2万5千人(約31.9%)で、専攻分野は社会科学、人文科学、工学の順に多い。学費負担者の割合は私費留学生が約86.6%で国費留学生の割合も徐々に増加しているが2割には満たない状況であり、留学生は経済的に厳しい環境におかれていることが分かる。

2. 札幌大学の沿革

2-1 留学生受入れに関する札幌大学の特色

北海道は 19 世紀に開拓されたことから、日本でもフロンティアスピリッツあふれる地と称されている。札幌大学は、その北海道の政治や経済の中心地である札幌市に、1967 年、「生氣あふれる開拓者精神」を建学の精神として誕生した。経済・外国語・経営・法・文化の 5 学部 8 学科、大学院 5 研究科を擁し、女子短期大学部を併設する札幌大学は、北海道を代表する「文科系総合大学」であり、一般学生だけでなく、外国人留学生や社会人など多彩な人々が学んでいる。

札幌大学では特に外国人留学生に対して、様々な支援対策が行われている。国際交流に関しては 1989（平成元）年に国際交流センターが設置され、翌年には国際交流委員会によって、留学生入試や留学生交流会が実施されている。また、1989（平成元）年から大学食堂の食券の支給が開始され、その後、多様な経済的サポートシステムが構築されている。特に新学科が開設された 1997（平成9）年には住宅費補助制度、身元保証に関する取り扱い要綱も設けられ、学生の負担が軽減されている。

日本の 18 歳人口激減を迎える今の時代に、留学生 10 万人計画や 18 歳人口の減少に対応するた

めの留学生受け入れに、札幌大学では多様な工夫が見られた。

2-2 新学科開設以降の留学生受入れに関して

札幌大学は 1997（平成9）年に新しい学部、学科（経営学科、産業情報学科、文化の2つの学科）が開設されて以来、毎年留学生の数が徐々に増加している。留学生は中国、韓国、台湾の学生が多い。中国、韓国、台湾の学生の大多数は私費留学生で、母国の高校を卒業してからただちに、または、しばらく仕事をしてから来日し、日本語学校で日本語を勉強してから私費外国人留学生入学試験を受け、入学するケースが多い。

試験に関しては、一般入試と推薦入試があり、一般入試は書類審査、筆記試験（日本語）、面接によって行われているが、推薦入試は書類審査と面接のみで留学生の負担を軽減している。また、札幌大学は単に留学生を受け入れているのではなく、単位互換制度を積極的に取り入れて、毎年多くの学生を協定校の外国の大学に派遣し、学生の学習機会の多様化を図っている。しかし、協定校からの留学生受入れに関しては、その数は伸び悩んでおり、派遣数と受入数がアンバランスな状況である。

【 略年表 】 新学科開設以降

1997（平成9）年	文化学部日本語・日本文化学科開設 文化学部比較文化学科開設 経営学部産業情報学科開設 大学院法学研究科修士課程開設 大学基準協会に維持会員として加盟 6号館完成 カナダ・セントメアリーズ大学、カナダ・サスカチュワン大学、アメリカ・ボール大学と留学協定を締結 立正大学と単位互換協定を締結
1998（平成10）年	アメリカ・マリアン・カレッジと留学協定を締結(大学)

1999 (平成11)年	大学入試センター試験実施 アメリカ・ネブラスカ州立大学リンカーン校と留学協定を締結 アメリカ・南フロリダ大学、オーストラリア・シドニー工科大学、オーストラリア・ニューキャッスル大学、オーストラリア・ビクトリア大学、オーストラリア・クィーンズランド工科大学と留学協定を締結 大学院経営学研究科修士課程開設
2000 (平成12)	大学院外国語学研究科修士課程開設
2001 (平成13)	大学院経済学研究科修士課程開設 大学院文化学研究科修士課程開設 能力開発センター開設 広東外語外貿大学語言文化学院と文化学部との間で交流協定締結

3. 留学生の受け入れ状況

2001 (平成13)年6月1日現在、研究生・科目等履修生を除いても10カ国154人の外国人留学生が札幌大学で学んでいる。留学生の多数は、中国人の私費留学生であり、学部生が圧倒的に多い。新学科開設の1997 (平成9)年には37人の学

生が入学し、4年後の2001 (平成13)年には36名が卒業している。卒業生の進路は進学者が17人、就職者が4人となっているが、その他15人の学生の進路は不明である。

【札幌大学における出身国(地域)別留学生数】

(研究生・科目等履修生は除く)

国籍	留学生数
中国	105
韓国	31
台湾	8
マレーシア	3
ロシア	2
ミャンマー	1
クウェート	1
インドネシア	1
アメリカ	1
オーストラリア	1
合計	154

(札幌大学のホームページより)

【学部学科別留学生在籍状況】

学部・学科	留学生数	備考
経営学部・経営学科	15	中国12、台湾1、マレーシア2
産業情報学科	58	中国44、韓国10、台湾2、ロシア1 ミャンマー 1
文化学部・日本語日本文化学科	34	中国16、韓国14、台湾3、クウェート1
比較文化学科	30	中国23、韓国5、台湾1、ロシア1
学部合計	137	
大学院法学研究科	4	中国3、インドネシア1
大学院経営学研究科	9	中国6、韓国1、台湾1、マレーシア1
大学院文化学研究科	1	中国1
大学院合計	14	
交換留学生	3	韓国1、アメリカ1、オーストラリア1
総計	154	

(札幌大学のホームページより)

4. 留学生の支援制度について

札幌大学は単に留学生の数を拡大するだけでなく、札幌市をアピールし留学生にとって魅力のある大学にするために、試行錯誤を繰り返している。その過程で留学生支援制度が誕生し、留学生の立場

に立った推薦制度が導入された。また、アパートの賃貸契約の際、大学理事長が身元保証人となるなど、様々な援助策が実施されている。

住宅費補助	経済的に苦しい学生 年額 30万円
昼食費補助	年額 30,000円
授業料の減免	年額 77万円 × 30% = 23万1千円
学生医療互助会費補助	入会金 500円 年会費3,000円
札幌大学後援会からの支援	「広辞苑」、札幌大学生生活協同組合利用券40,000円

2001年度実績(札幌大学大学案内)

5. おわりに～札幌大学の今後の課題と展望

札幌大学における留学生受入れ制度の沿革と現

状を概観してきた。札幌大学は日本留学の大きな足

枷となっている経済的な支援制度が非常に充実しており、事務の方々のサポート体制にも感銘を受けた。しかし、留学生から不満の声も少なからず聞こえてくる。その原因は色々と考えられると思うが、札幌大学だけではなく日本の大学に共通して見られる課題として、最後に三つほど簡単に述べたい。

第 1 にこれまでの留学生受け入れは、質的充実より留学生の量的充足に重点が置かれてきた。そのため、受入れ制度の入り口だけは開かれてきているが、内容が留学生の多様性や将来性を考慮したものとは言えず、今後、魅力ある教育プログラムの開発が必要であろう。また、その際に留学生総数の 90%以上がアジアからの留学生であることを考慮し、今後の日本とアジアとの関係性について、ビジョンを明確にしていく必要があると思われる。第 2 に卒業後のフォローアップの問題である。札幌大学の場合、昨年度の卒業生 36 名のうち 15 名の進路が不明になっており、今後、日本での留学がどのような役割を果たしているのか、留学生受入れ制度の改善を図る上でも、卒業後の進路を辿っていく必要があるだろう。第 3 に留学生受入れに関する専門家の養成や教官との連携があげられる。留学生の受入れに関しては、生活面、学業面双方においてきめ細やかなサポートが必要になってくるが、指導・相談体制が充実しているとは言えず、カウンセリング体制なども考慮した留学生受入れの総合的な窓口の整備を図っていかねばならないであろう。

18 歳人口の減少に伴って、札幌大学だけではなく多くの大学で留学生の量の拡大を追求する一方、国際交流の真の意味を薄めていく傾向があるように感じている。しかし、単に留学生を受け入れただけでは決して国際交流とは言えない。21 世紀を展望し、日本が国際化社会になるためには、各国の人々と交流する機会を増やさなければならない。互いの技術、文化、習慣などを学び交流を深めることによって、得られるものは非常に多く、日本との架け橋と成り得る可能性を作り出す留学制度の充実を望む。

参考文献など

■札幌大学・札幌女子短期大学部 大学案内 国際交流センター
北海道留学生交流推進協議会『北海道内における留学生受入れの現状等について』(平成13年)、2001年11月

■留学交流事務研究会編著『留学交流執務ハンドブック』2000(平成12年度)、2000年6月、17頁～28頁

■文部科学省website (<http://www.mext.go.jp/>)

・『留学生受入れの状況』(平成13年版)2001年10月

・文部科学省高等教育局留学生課『我が国の留学制度の概要 受入れ及び派遣』(平成13)、2001年、4頁

■札幌大学website (<http://www.sapporo-u.ac.jp>)

<付記>

国際交流課 加賀谷晴美さんが提供して下さった資料「札幌大学における留学生受入れの現状について」を参考にさせていただきました。